

# 加賀検定

## 第10回 加賀ふるさと検定試験問題

初級 (全60問)

**解答・解説付**

2022年12月18日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

1 衣服の素材は、戦後になるまでずっと ( ) が中心であった。

- ①人絹<sup>じんけん</sup> ②麻や綿 ③テトロン ④ナイロン

正答率 89.9%

江戸時代までは、身分の高い一部の人は絹を素材とした衣服を着ていましたが、それ以外の人々は麻や木綿を素材とした衣服が中心でした。人絹(レーヨン)やテトロン、ナイロンなどの化学繊維を素材とした衣服が日常的に使われるようになったのは戦後のことです。

2 「戦後強くなったのは女性と靴下」という言葉が流行ったが、その意味は「女性」は民主主義の象徴であり、「靴下」は ( ) のことを指している。

- ①綿糸<sup>めんし</sup> ②麻糸<sup>あさいと</sup> ③テトロン ④ナイロン

正答率 28.9%

明治・大正・昭和と、封建社会の男性支配が長く続いていた日本において、戦後、女性の社会的地位を高めることを目指した女性解放運動が活発になり、また、人々の履く靴下やストッキングもナイロン製が登場したことで、こうした言葉が使われるようになりました。

3 エアコンやストーブがない時代、( ) と呼ばれる行火<sup>あんか</sup>を布団に入れて暖をとった。

- ①カンテラ ②バンドコ ③ドンザ ④ユタン

正答率 24.2%

昭和30年頃までは、特に寒い夜は、着物のように袖がある「夜着」と呼ぶ掛布団を着て寝たり、「バンドコ」と呼ばれたこたつや湯たんぼなどで暖をとりました。バンドコは、火種を入れてふたをして、上からこたつ布団をかけた暖房器具のことで、電気こたつなどが登場するまでは、一般の家庭でも全国的によく使われました。

4 田植え作業のとき、水玉模様の姉さんかぶりに、かすりの着物、赤い前掛けをし、たすきをする女子の和服を ( ) と言った。

- ①乙女着姿<sup>おとめぎすがた</sup> ②娘着姿<sup>むすめぎすがた</sup> ③五月姿<sup>さつきすがた</sup> ④早乙女姿<sup>さおとめすがた</sup>

正答率 37.6%

田植え作業では、女子は水玉模様の手ぬぐいを姉さんかぶりにして、かすりの着物に赤い前掛け・襷をして、いわゆる「早乙女姿」で行うことが一般的でした。戦時中、女子の間では「モンペ」が流行り、戦後のズボンになるまで愛用されました。早乙女の「さ」は稲の神様を意味しているとも言われています。

5 刺身<sup>さしみ</sup>に見立てたコンニャクやクズキリ<sup>しろみそ</sup>を白味噌<sup>しろみそ</sup>などにつくったタレをつけて食べる郷土料理は ( ) と称し、当地でも法事の際の精進料理<sup>しょうじんりょうり</sup>としてよく出された。

- ①ズイキ ②ハウトウ ③キシズ ④ナマズ

正答率 67.1%

キシズは精進料理を代表する料理のひとつです。刺身代わりとするコンニャクやくずきり・はるさめを中心に、ワカメ・タケノコ・キクラゲ・すだれ麩・キュウリなどをキシズと称するタレをつけて食べます。タレは、白味噌と白ゴマ・豆腐・落花生などを材料に、すり鉢で液状になるまで混ぜて作ります。昔は報恩講や法事の際にはよく出された料理でした。

6 江沼平野は、( ) を源流とする大聖寺川や動橋川などによって運ばれてきた土や砂が堆積してつくられたものである。

- ①白山 ②大日山 ③富士写ヶ岳 ④刈安山

正答率 85.9%

加賀市には、大聖寺川と動橋川の2つの大きな河川があり、いずれも「大日山」を源流としています。大日山は、福井県勝山市と石川県の小松市、加賀市にまたがる標高 1368mの山です。その頂上は加賀市と小松市の境界に位置するところとなっています。山名は大日如来を祀ったことに由来しています。

7 加賀市の( )には、戦後、2つの大きなダムが造られ、これにより水害がほとんどなくなった。

- ①熊坂川 ②大聖寺川 ③尾俣川 ④動橋川

正答率 71.8%

大聖寺川は蛇行した形状のため、古来よりたびたび氾濫を起こしてきました。昭和 8 年から始められた河川改修工事は、昭和 61 年の激甚災害特別事業までおよそ 50 年という長い年月をかけて治水工事が行われてきました。昭和 40 年には我谷ダムが、平成 18 年には九谷ダムが完成したこともあり、近年、大聖寺では水害に遭うことはほとんどなくなりました。

8 加賀市の片野鴨池は( )登録湿地で、全国でも有数の渡り鳥の飛来地として知られる。

- ①パリ条約 ②ロンドン条約 ③ラムサール条約 ④ワシントン条約

正答率 94.6%

片野鴨池は周囲を小高い丘に囲まれたわずか 2.5ha 程度の小さな溜め池ですが、冬場は水張りをして約 10 haの池になります。鴨池は人間の手により自然を守りながら利用してきたことで平成 5 年(1993)にラムサール条約登録湿地となりました。ラムサール条約は昭和 46 年(1971)にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された湿地に関する条約のことです。

9 柴山潟、木場潟、今江潟などは、土や砂が堆積せずに残った部分で、これらの湖は( )と呼ばれる。

- ①海跡湖 ②沖積湖 ③入江湖 ④段丘湖

正答率 28.9%

加賀市の地形は大きくは低地、台地、丘陵山地の3つに大別され、低地の中心は江沼平野です。約 6000 年前の縄文時代は今より海面が 2~3 m高かったといわれ(縄文海進)、江沼平野もこの時代は入り江や浅い海でした。その後、大聖寺川や動橋川などによって運ばれてきた土や砂が堆積して平野になりましたが、柴山潟、木場潟、今江潟などは、土や砂が堆積せずに残った部分で、これらの湖は「海跡湖」と呼ばれています。

10 加賀市の神社や鹿島の森などは、ヤブツバキクラス域(常緑広葉樹林帯)に属しており、そうした場所は昼でも薄暗く、タブや( )などの樹木が多く見られる。

- ①スギ ②アケビ ③クズ ④スダジイ

正答率 30.2%

加賀市の植生は、ほとんど「ヤブツバキクラス域」(常緑広葉樹林帯)に属しています。町内の各神社や錦城山、鹿島の森などもこのクラス域です。こうしたところは一年を通して、昼でも薄暗いタブノキやスダジイの林となっています。また、冬は比較的暖かく夏は涼しい、一年の間で気温の変化が少ないところです。

11 明治 36 年、初代（ ）は轆轤技術を応用して、自転車部品である木製リムの製造を開始し、当市における機械製造業発展の基礎を築いた。

- ① 築城良太郎 ② 新家熊吉 ③ 新家理与門 ④ 篠原藤平

正答率 85.2%

加賀市の基幹産業である機械製造業は、山中町出身の初代新家熊吉がそのきっかけをつくりました。熊吉は、明治 36 年（1903）、に「新家商会」を創業し、山中漆器における轆轤技術を応用し、自転車部品である木製リムの製造を始めました。その後、鉄製リムから自転車チェーンなどを製造し、現在の「大同工業」へと発展しました。

12 元大聖寺藩士の（ ）は、琵琶湖に汽船を就航させることを考案し、明治 2 年に一番丸を就航させた。

- ① 石川嶂 ② 梅田五月 ③ 飛鳥井清 ④ 河野安通志

正答率 71.1%

大聖寺藩は明治 2 年 3 月に川蒸気船一番丸を、続いて同年 10 月には川蒸気船二番丸を琵琶湖に就航させました。川蒸気船一番丸は、賈金によって製造されたといわれています。川蒸気船の発案者は、東方芝山の指導を受けた石川嶂でした。この汽船は木造の外輪船でしたが、大津—海津（加賀藩領）間 64 キロメートルを往復する日本最初の川蒸気船となりました。

13 分校村の農民であった新家理与門らは、明治 4 年（1871）、藩の増税策の見直しや十村役の廃止を訴えるために（ ）一揆を起こした。

- ① 青虫 ② いも虫 ③ みの虫 ④ かめ虫

正答率 91.3%

明治 4 年（1871）11 月、大聖寺県内で農民一揆が起こりました。この一揆は、胴ミノを着た農民の姿が蓑虫に似ていたので「みの虫一揆」（明治一揆）と呼ばれています。この一揆では 8 人から 9 人が逮捕され、首謀者であった上分校村の新家理与門は捕らえられ、翌年、金沢の刑務所で獄死しました。現在、分校町には、明治 28 年に江沼郡の町村長が発起人となって建てられた理与門の石碑があります。

14 京都出身の総合芸術家（ ）は、大正 4 年、山代温泉に来遊し、須田菁華から九谷焼を学び、陶芸の分野でもその才能を発揮した。

- ① 北出塔次郎 ② 富本憲吉 ③ 諏訪蘇山 ④ 北大路魯山人

正答率 73.2%

北大路魯山人は、書や篆刻、絵画、陶芸といった様々な分野で芸術的な才能を発揮しました。特に、食と器にはなみなならぬ興味を示し、星岡茶寮を拠点にした美食倶楽部を主宰しました。大正 4 年に山代温泉に来遊し須田菁華から九谷焼の手ほどきを受け、その後、菁華を陶芸の師と仰ぎました。

15 （ ）から出土した斧形石器と槍先形尖頭器は、旧石器時代終わり頃から縄文時代始め頃のものとして推定される。

- ① 美崎千崎遺跡 ② 新保遺跡 ③ 橋立大野山遺跡 ④ 新堀川遺跡

正答率 69.8%

橋立大野山遺跡は旧石器時代から縄文時代への転換期における市内では数少ない遺跡の一つで、出土した斧形石器や槍先形尖頭器がその時代性をよく示しています。

16 加賀市勅使町の国指定史跡（ ）横穴群は、古墳時代を代表する遺跡で、200 基余りの横穴があると考えられている。

- ① 勅使山 ② 天皇山 ③ 法皇山 ④ 皇子山

正答率 77.9%

勅使町の南にある法皇山には、およそ 80 基の横穴墓が確認されていますが、未確認のものも合わせると 200 基以上の横穴があると考えられています。これら横穴の奥には遺体を安置する玄室と呼ぶ部屋があり、天井は、ドーム形・アーチ形・家形など様々な形態が見られます。また、壺や玉類・金環なども発見されており、古墳時代後期における当地域の有力者の集団墓とみられています。

17 藤の木遺跡からは、北陸・東海・近畿・関東系の特色をもつ縄文時代中期の土器や信濃和田峠産の（ ）で作られた石刃も出土しており、縄文交易の広がり示している。

- ① 水晶 ② 雲母 ③ 滝ヶ原石 ④ 黒曜石

正答率 86.6%

藤ノ木遺跡から出土した和田峠産の黒曜石製石刃は、火成岩の一つで、緻密な玻璃質で割れると貝殻状の断面が残るので、旧石器時代から縄文時代まで石器の材料として好んで用いられました。原産地により石質が異なり、産地も限られているので、その分布は交通交易等を知る手掛かりとなっています。

18 黒瀬・南郷古墳群のうち、吸坂イカリ山 13 号墳は、全長（ ）m を越す市内最大級の前方後円墳で、江沼郡の首長であったと考えられる豪族の墳墓と推察されている。

- ① 20 ② 50 ③ 70 ④ 120

正答率 61.7%

南郷町から吸坂町、上河崎町にかけての丘陵地に約 85 基の古墳が密集し、黒瀬・南郷古墳群と呼ばれています。そのうち吸坂丸山支群には全町 60m の市内最大の前方後円墳である吸坂 A3 号墳や全長 70m を越す市内最大の前方後円墳である吸坂イカリ山 13 号墳など、大聖寺川水系を支配し、江沼郡全体の首長であった豪族の墳墓が築かれています。

19 平安後期の書である『白山之記』に、江沼郡内では白山五院の他に、那谷寺・温谷寺・（ ）の三箇寺が白山信仰の拠点地として建立されたことが記載されている。

- ① 温泉寺 ② 柏野寺 ③ 栄谷寺 ④ 極楽寺

正答率 43.6%

平安後期、長寛元年（1163）、白山宮長吏隆厳の遍になる『白山之記』には、江沼郡内の柏野寺・温泉寺・極楽寺・小野坂寺・大聖寺の 5 つの寺院を「白山五院」とし、その外「白山三箇寺」として那谷寺・温谷寺・栄谷寺があり、当時、江沼郡は白山信仰の中心地となっていました。

20 鎌倉時代、北野宮寺領であった（ ）の新補地頭として土着した狩野氏は、荘内の総鎮守社の神主職をも握るようになり、江沼郡でも最も有力な国人（土豪）にまで成長した。

- ① 福田庄 ② 奈多庄 ③ 額田庄 ④ 熊坂庄

正答率 42.3%

狩野氏は伊豆国田方郡狩野荘を本拠とする藤原姓狩野・工藤一党の流れをくむ一族で、「承久の乱」後、新補地頭として北野社領福田荘に入部・土着し、弘安 10 年（1287）10 月の関東下知状によれば、狩野忠広が荘内の菅生社に対して領有権をもつことが、すでに寛元元年（1243）の関東下知状によって確認されているといわれています。以後、狩野氏は室町時代末期まで神主職を世襲することとなります。

21 建武2年(1335)、鎌倉幕府の再興を図って中先代の乱が起こると、この反乱に北陸道で呼応した( )の軍勢が上洛を目指して南下した。

- ①北条時行 ②大仏貞直 ③名越時兼 ④金沢貞顕

正答率 50.3%

鎌倉幕府の崩壊によって成立した建武政権は、全国の領主や民衆の期待に応える政権でなかったため、各地で建武政権に対する反乱がおこりました。その最大な反乱が、建武2年(1335)7月、北条高時の子時行を擁立した中先代の乱でした。これに呼応した越中の前守護名越時有の子時兼が越中・加賀・能登の軍勢を集め、上洛しようと南下した際、「大聖寺ノ城」に立て籠もる狩野一党が、越前からの援軍を得て時兼軍を阻止し、殲滅させました。

22 建武3年(1336)、新田義貞派の畑時能が狩野一党を味方に入れ、大聖寺ノ城に立て籠もる尊氏方の( )を攻め落としました。

- ①津葉清文 ②斯波高経 ③富樫高家 ④脇屋義助

正答率 30.2%

建武3年(1336)、建武政権が崩壊の後、反足利尊氏派の新田義貞が越前に入ると、狩野一党は新田勢に同調し、義貞派の畑六郎左衛門尉時能と組んで、大聖寺城の津葉清文を攻め落とし、越前守護の斯波高経や加賀守護の富樫高家等と対立しました。

23 加賀の守護職をめぐって弟幸千代と争い、越前に亡命していた( )は本願寺派と結び、文明6年(1474)幸千代が拠点とした蓮台寺城を陥れ守護職を奪還した。

- ①朝倉宗滴 ②織田信長 ③富樫政親 ④上杉謙信

正答率 50.3%

文明年間、加賀の守護職をめぐって富樫政親と弟の幸千代が争っていましたが、蓮如が吉崎に進出した頃は幸千代が優勢で、政親は越前に逃げる状況でした。その後、幸千代側は本願寺派が吉崎を拠点にして加賀に勢力を伸ばす状況を打破しようとしていたことに着目し、政親が本願寺門徒と手を結ぶことで、越前から加賀に打ち入り、幸千代が拠点としていた能美郡の蓮台寺城を陥して守護職奪還に成功しました。

24 文明18年(1486)頃、蓮如の4男( )が江沼郡の門徒から取り立てられて山田坊に入り、光教寺が成立すると、後の「加州三ヶ寺体制」の基礎が確立した。

- ①蓮乗 ②蓮綱 ③蓮誓 ④蓮悟

正答率 82.6%

蓮如の吉崎進出以前に、河北郡二侯の本泉寺を蓮如の二男蓮乗が嗣ぎ、3男蓮綱は能美郡波佐谷の松岡寺を開いていましたが、文明18年(1486)頃、4男蓮誓が江沼郡の門徒から取り立てられて山田坊に入り、光教寺が成立しました。この蓮如の子が住持する寺を「加州三ヶ寺」、3兄弟を「三山の坊主」といい、加賀の一向一揆を統制することになりました。

25 謡曲「敷地物狂」や「ゆみつぎ」は、江沼郡の出身と伝えられる僧( )の事蹟をもとに創作されたものである。

- ①明覚 ②円珍 ③延昌 ④円仁

正答率 45.6%

第15代天台座主延昌は、各種の僧伝で江沼郡出身と伝えられています。延昌は幼くして比叡山で仏教を学び、僧正の位にまで昇り、朱雀・村上両天皇の護持僧として厚く信任されました。最期には、王朝期の天台浄土教を絵に描いたような典型的な「糸引き往生」をとげました。

26 天正12年(1548)溝口秀勝は( )の与力として大聖寺城に入り、およそ15年間にわたって当地を治めた。

- ① 明智光秀 ② 丹羽長秀 ③ 柴田勝家 ④ 滝川一益

正答率 53.0%

溝口秀勝は尾張西溝口村の出身で、越前北庄城主丹羽長秀の与力として大聖寺城4万4000石を与えられました。長秀の死とともに堀秀政の与力となり、引き続き江沼郡を治め、秀吉の刀狩令にも積極的に協力しました。その後、堀秀政の子の秀治が越後春日山城に移封となると、秀勝も越後新発田6万石に移りました。

27 宮本屋窯の画工( )は、赤絵細描九谷の大成者で、その門下には竹内吟秋や浅井一毫がいる。

- ① 軽海屋半兵衛 ② 永楽和全 ③ 飯田屋八郎右衛門 ④ 吉田屋伝右衛門

正答率 34.9%

飯田屋八郎右衛門は宮本屋窯の画工で赤絵細描九谷の大成者とされています。八郎右衛門の技法は「八郎手」と呼ばれました。なお宮本窯は飯田屋窯とも呼ばれています。八郎右衛門の門下に竹内吟秋・浅井一毫がいます。

28 元禄2年(1689)、松尾芭蕉が山中温泉の( )に宿泊した際、宿の主人久米之助に桃夭の俳号を贈ったが、夭の字は不吉として桃妖にしたという。

- ① 吉野屋 ② 泉屋 ③ 俵屋 ④ 蔵屋

正答率 51.0%

松尾芭蕉は山中温泉を気に入り、「温泉頌」と称する一文を残し、山中を有馬・草津と並ぶ「扶桑三の名湯」とされています。その際投宿した宿は湯本12軒の一つ泉屋で、幼主久米之助の父も俳人であった関係で、久米之助に自分の俳号桃青から一字を与え桃夭の号を贈りましたが、夭の字は不吉として、桃妖にしたといわれています。

29 大聖寺城主の山口宗永・修弘父子は、慶長5年(1600)8月3日に金沢の前田軍と戦って敗れ、大聖寺城内で自決して家臣約( )を失ったという。

- ① 600人 ② 700人 ③ 800人 ④ 900人

正答率 72.5%

大聖寺城主の山口宗永・修弘父子は、慶長5年(1600)8月3日に金沢城主前田利長と戦って敗れ、大聖寺城内で自決しました。この大聖寺合戦では1200人余の山口軍が僅か1日で敗戦し、800人余の家臣が討ち死しました。一方、利長軍では長連龍の家臣が鐘ヶ丸の戦いで多く戦死しました。いまでも彼らの墓は錦城中学校前の住宅地に「四墓」として残っています。

30 加賀藩主3代前田利常は、寛永2年(1625)年に久世徳左衛門に命じ、大聖寺川から水を引き入れて別所村から山代新村に至る( )用水を完成させた。

- ① 市之瀬 ② 矢田野 ③ 紙谷 ④ 御水道

正答率 86.6%

加賀藩主3代前田利常は、寛永2年(1625)年に郡奉行吉田伊織の家来の久世徳左衛門に命じ、別所村領の大聖寺川から水を引き入れて山代新村に至る市之瀬用水を完成させました。同6年には山代新村の勧進場に山代神明宮を建てて市之瀬用水の鎮守とし、社地を寄進するとともに久世徳左衛門を神官に任命しました。文政6年(1823)には市之瀬神社と改称されました。

31 大聖寺藩主前田利明は、延宝4年(1676)に中田村五郎兵衛と足軽の栗村茂右衛門を河北郡二俣村に派遣し、( )の方法を習得させた。

- ①養蚕 ②製茶 ③製紙 ④製塩

正答率 45.0%

大聖寺藩主2代前田利明は、延宝4年(1676)に中田村五郎兵衛と足軽の栗村茂右衛門を河北郡二俣村に派遣し、御料紙や日常紙の製法を習得させました。日常紙は、「紙屋谷」と呼ばれた中田・長谷田・上原・塚谷など4か村(土谷村を加え5か村)で製造されましたが、御前延紙・銭手形紙など御料紙は中田村の角屋家と大茂谷家で製造されました。

32 大聖寺絹は、延享年間(1744~47)に( )の沢屋が大聖寺に織物技術を伝えたことに始まり、武士の奥方の内職として広まり「お内儀絹」(おかみさまぎぬ)と呼ばれた。

- ①庄村 ②西島村 ③加茂村 ④中代村

正答率 56.4%

庄絹は、元禄年間(1688~1703)に京都の西陣織を習った荻生村の娘が庄村に嫁いだことに始まり、庄村の餅屋や京屋などが中心となって手広く販売されるようになりました。大聖寺絹は、延享年間(1744~47)に庄村の沢屋仁左衛門が大聖寺に織物技術を伝えたことに始まり、武士の奥方の内職として広まり「お内儀絹」と呼ばれました。

33 大聖寺藩では、江戸中期から菜種油の荏油のほかに桐油や桐油も多く生産した。桐油の生産量は、江戸後期に( )の村々が領内の80%を占めていた。

- ①東谷 ②西谷 ③三谷 ④菅谷

正答率 40.3%

大聖寺藩では荏油や菜種油とともに桐油や桐油が多く生産されました。油屋は元禄期に福井藩から油桐の実と桐の実を購入し、大聖寺町で桐油と桐油を製造しました。その後、油桐や桐油は三谷の曾宇・直下・日谷村をはじめ、領内の村々でも栽培されるようになりました。桐油は江戸末期に「大聖寺桐油」と称し、他領にも知られる産物となりました。なお、石川県の桐油生産量は、大正3年(1914)に全国第4位で、その8割を三谷村・三木村が占めていました。

34 大聖寺藩の製茶業では、江戸前期から( )甚四郎が代々藩の茶問屋を務めて口銭(手数料)を得ており、大聖寺城下には下問屋2人を置いていた。

- ①山代村 ②保賀村 ③打越村 ④串村

正答率 30.2%

大聖寺藩では、江戸前期から串村甚四郎が代々藩の茶問屋を務め、大聖寺城下には下問屋2人を置いていました。串村甚四郎は毎年2月に口銭(手数料)を精算し、3分の2を藩へ上納し、その残りを取得しました。その後、藩は文化10年(1813)に串村甚四郎の独占体制を廃し、一時的に大聖寺町の田中屋十左衛門を茶問屋、吉田屋伝右衛門を茶頭取に任命しました。

35 大聖寺藩では、大聖寺城下の西端に関所を、越前国境の吉崎・( )・大内・橋村などに口留番所を置き、越前との往来を監視した。

- ①風谷 ②九谷 ③片谷 ④菅谷

正答率 16.8%

大聖寺藩では、大聖寺城下の西端に関所を、越前国境の吉崎・風谷・大内・橋村などに口留番所を置き、越前との往来を監視しました。関所は慶長年間(1596~1614)に加賀藩が設置したもので、日の出とともに門扉を開き、日没とともに閉じ、夜間の通行は禁止されていました。足軽数人が当番と非番に分かれ、昼夜ともに門番に当たっていました。



36 大聖寺藩主9代（ ）は、文政4年（1821）12月に加賀藩主12代前田齊広の願書により幕府から10万石の待遇が公認された。

- ①前田利考 ②前田利之 ③前田利極 ④前田利平

正答率 71.1%

大聖寺藩主9代前田利之は、文政4年（1821）12月に加賀藩主12代前田齊広の願書により幕府から10万石の待遇が公認されました。10万石の内訳は本高7万石・新田高1万石に、毎年、本藩から支給される米2万俵を加えたものです。しかし、幕府の朱印状は8万石で、本藩の支給米も毎年金300両にすぎませんでした。

37 加賀市八日市町の外れには、平安時代末期の歌人（ ）が弟子の西住と別れた伝える場所に石地蔵の「都もどり地蔵」（加賀市指定文化財）がある。

- ①西行法師 ②藤原定家 ③菅原道真 ④紀貫之

正答率 62.4%

加賀市八日市町には、平安時代末期の歌人であるが西行が、弟子の西住と別れた伝える場所に「都もどり地蔵」があります。両僧は加賀国を訪れたとき、大聖寺川支流の杉ノ水近くに滞在し、やがて二人は八日市で別れたものの、西住は再び大聖寺川支流の杉ノ水近くに定住したと伝えられています。西住が定住した地は、後に西住村と称したといひます。

38 家老の村井主殿は、宝永6年（1709）に大聖寺藩主前田利直の意を受けて、小堀遠州の建築意匠を採り入れた（ ）を建造したといわれている。

- ②蘇梁館 ③長流亭 ④梅花庵

正答率 76.5%

家老の2代村井主殿は、宝永6年（1709）に大聖寺藩3代前田利直の意を受けて、小堀遠州作成の茶席図をもとに長流亭（川端御亭）を建造したといわれています。侘びと雅が融合した大胆な意匠と細部にまで入念に施された装飾は、江戸期の加賀・大聖寺両藩の文化水準と工芸技術の高さを今に伝えるものとして、高い評価を得ています。

39 加賀市（ ）町の外れには、寿永2年（1183）の源平争乱で戦死した斎藤実盛の霊を鎮めるために築いたと伝えられる「実盛塚」がある。

- ①篠原 ②篠原新 ③手塚 ④伊切

正答率 30.9%

加賀市篠原新町には、寿永2年（1183）の源平争乱で戦死した斎藤実盛の霊を鎮めるために築いたと伝えられる「実盛塚」があります。また、この塚の近くの同市手塚町には実盛の首を洗ったと伝えられる「首洗池」もあります。さらに、同市深田町には実盛が白髪を染めるときに使用した鏡を投げ入れたと伝える「鏡の池」があります。

40 加賀市大聖寺の（ ）には、京都の仏工山本茂祐が慶応3年（1867）から明治初年にかけて製作した木製の「五百羅漢像」（計517体）が残っている。

- ②実性院 ③全昌寺 ④宗寿寺

正答率 77.9%

加賀市大聖寺町の曹洞宗全昌寺には、京都の仏工山本茂祐が慶応3年（1867）から明治初年にかけて製作した木製の「五百羅漢」が残っています。同寺には500体の五百羅漢の外、3体の釈迦三尊像、10体の十大弟子尊像、4体の四天王尊像などが、色彩豊かに保存状態も良好な形で残されています。また、製作記録と寄進者を記録した台帳も現存しています。

41 小塩辻村の初代鹿野小四郎は、十村役（組付十村や目付十村）を約 15 年間務めたのち、宝永 6 年（1709）に貴重な農書（ ）を著した。

- ① 農業全書 ② 農業蒙訓 ③ 農事遺書 ④ 耕稼春秋

正答率 83.2%

初代鹿野小四郎は、元禄 4 年（1691）に目付十村となり、同 6 年に吉崎村から地の利がよい小塩辻村に引越（引越十村）を命じられました。初代鹿野小四郎は宝永 6 年（1709）に「農事遺書」を著しました。この書は、農事全般の体験や知識を自身の子孫に伝えるために遺書の形で書き綴ったもので、江戸中期の農業史を研究する上で極めて価値の高い資料となっています。

42 山中温泉（ ）の菅原神社境内には、地上 4.9m のところで二つに分かれ、東幹の幹周が 5.1m、西幹の幹周が 5.8m で、本州最大級の巨樹「天覧の大杉」がある。

- ① 下谷町 ② 菅谷町 ③ 栢野町 ④ 我谷町

正答率 51.0%

山中温泉栢野町の菅原神社境内には、地上 4.9m のところで二つに分かれ、東幹の幹周が 5.1m、西幹の幹周が 5.8m で、本州最大級の巨樹「天覧の大杉」があります。一説には樹齢は 2300 年余と伝えられていましたが、近年の樹齢測定では 700 年ほどと考えられています。昭和 22 年（1947）に昭和天皇が北陸巡幸のとき、立ち寄られたため、「天覧の大杉」ともよばれています。

43 加賀市中央公園の民俗文化財収蔵庫には、加賀市分校町の伊藤常次郎が生涯をかけて収集した（ ）の山村生産用具及び民家（国指定有形民俗文化財）が保管されている。

- ① 白山麓 ② 加賀国 ③ 江沼郡 ④ 大日山麓

正答率 23.5%

加賀市中央公園の民俗文化財収蔵庫には、加賀市分校町の伊藤常次郎が生涯をかけて収集し寄附された「白山麓の山村生産用具及び民家」（民具 2236 点、民家 1 棟）が保管されています。これは、木挽や炭焼・狩猟・焼畑・養蚕などに関わる民具 2236 点と、小松市の旧新丸村新保における出作り小屋を改良して永住家屋として使われていた山村民家 1 棟のことです。

44 明治 3 年（1870）、大聖寺藩は 50 人の浦上キリシタンを預かり、大聖寺山ノ下寺院群久法寺の裏山に位置する（ ）の長屋に收容した。

- ① 庄兵衛谷 ② 穴虫 ③ 木呂場 ④ 法華坊

正答率 51.7%

明治政府は、神道国家を進めるためにキリスト教の国内布教を認めず、旧幕府同様の禁圧政策をとり、明治元年（1868）4 月に長崎浦上の信徒 3300 人余りを全国 20 の諸藩に分けて配流することを決定しました。大聖寺藩では、50 人のキリシタンを預かり、同 3 年（1870）1 月に、大聖寺庄兵衛谷の鉄砲場の長屋に收容しました。

45 加賀市で北前船の四大船主といわれているのは、西出孫左衛門、大家七平、廣海二三郎と（ ）である。

- ① 酒谷長兵衛 ② 西野小左衛門 ③ 久保彦兵衛 ④ 忠谷久五郎

正答率 46.3%

北前船主や船頭を輩出した大聖寺藩の橋立村・瀬越村では、いずれも北前船が接岸できるような大きな湊をもっていませんでしたが、「北前船のふる里」として栄えました。特に橋立の久保彦兵衛、西出孫左衛門、瀬越の大家七平、広海二三郎の 4 人の活躍は突出しており、加賀の 4 大船主として全国に知られています。

46 大聖寺山ノ下寺院群の（ ）には、明治期、鉛筆製造に尽力した柿沢理平の墓があり、その法名は「制鉛院造筆日肇居士」と刻まれている。

- ①蓮光寺 ②久法寺 ③正覚寺 ④本光寺

正答率 43.0%

明治10年(1877)、旧藩士飛鳥井清は、柿沢理平を工場長にして「加州松島社」という鉛筆の製造会社を創設しました。理平はその後、舶来品に劣らない良質の鉛筆を作り出すことに成功しました。久法寺には鉛筆製造に生涯を捧げた柿沢理平の墓があり、その戒名は「制鉛院造筆日肇居士」と刻まれています。

47 明治期、江沼郡では、伊万里焼の写しを大量に生産した。この焼き物は仕上がりが良く、（ ）伊万里と呼ばれ、海外では大変人気があった。

- ①吸坂 ②江沼 ③大聖寺 ④山代

正答率 43.0%

明治期、大聖寺の貿易商などが中心となって、盛んに九谷焼や山中漆器が海外に輸出されました。特に、大聖寺の陶磁器職人の間で、江戸時代の伊万里焼の写しを大量に生産しました。この写しは、仕上がりが大変良く「大聖寺伊万里」と呼ばれて、海外でも高い人気がありました。

48 明治11年(1878)、大聖寺本町に、当地では初めての本格的な銀行である（ ）銀行が設立された。

- ①七十七 ②八十四 ③百五 ④百十四

正答率 79.9%

明治11年(1878)11月、大聖寺に初の本格的な銀行となる第八十四国立銀行が設立されました(開業は翌12年1月)。同30年5月には、酒問屋を営んでいた東京の中沢彦吉が譲り受け本店を東京に移し、大聖寺店は支店となりました。その後、関東大震災や世界恐慌とそれに伴う大聖寺の織物業の不振などにより、昭和3年、いくつかの休業銀行を整理統合した昭和銀行として再生されました。

49 明治44年(1911)創業の大聖寺川水電株式会社は、電力の必要をいち早く感じていた（ ）たちが中心となってつくられた。

- ①旅館主 ②北前船主 ③機業家 ④医師

正答率 83.2%

明治44年(1911)、電力の必要性をいち早く感じていた橋立の北前船主たちが中心となって「大聖寺川水力発電株式会社」が創立されました。発電された電力により、江沼郡内の馬車鉄道は電気軌道に、旅館のランプは電灯に切り替わりました。

50 明治5年に「学制」が公布され、これに基づき、翌6年、江沼郡内では21におよぶ小学校が設立された。このうち、大聖寺には、錦城・（ ）・有隣・旗陽の4つの小学校が  
つくられた。

- ①遷明 ②京達 ③時習 ④松島

正答率 34.2%

石川県では明治6年に区学校規則を定め、江沼郡を第2大学区23中学区とし、錦城・京達・有隣・旗陽の大聖寺4校をはじめ、塩浦(塩屋)、竹浦(瀬越)、三木、対溪(長谷田)、山中、脩来(塔尾)、開陽(山代)、勅使、那谷、打越、動橋、玄笠(七日市)、保賀、尚禮(片山津)、北浜(橋立)、得知(篠原)、柴山などの21の小学校が設立されました。

51 JF いしかわの 2019 版の統計によると、石川県全体の漁船総数<sup>ぎょせんそうすう</sup>3,884 隻<sup>せき</sup>に対して、加賀市の漁船数は（ ）隻となっている。

- ① 67    ② 149    ③ 208    ④ 326

正答率 52.3%

2019 年当時、加賀市の漁船は 149 隻となっています。漁船数及び組合員数は圧倒的に能登地域が多いのですが、加賀地域だけを見ますと、漁船数や組合員の数は、金沢や美川を押さえて加賀市の方が多く、当地は加賀地域では漁業が最も盛んな地といえます。

52 平成 22 年の国勢調査における加賀市の産業別就業者<sup>さんぎょうべつしゅうぎょうしゃ</sup>の比率を見ると、第 1 次産業の農林水産業にたずさわる人は、およそ（ ）%である。

- ① 3    ② 12    ③ 26    ④ 35

正答率 61.1%

平成22年の国勢調査によれば、加賀市の産業別就業者の比率は、農林水産業などの第 1 次産業が3.1%、建設・製造業を中心とした第二次産業が35.1%、飲食店やサービス業、運輸業などに従事する第三次産業は60.0%となっています。昭和55年からの推移を見ると、第一次産業の比率は減少を続けています。

53 加賀市の（ ）町では、トマトなどを中心としたハウス栽培が盛んである。

- ① 柴山<sup>しばやま</sup>    ② 三谷<sup>みたに</sup>    ③ 横北<sup>よこぎた</sup>    ④ 作見<sup>さくみ</sup>

正答率 72.5%

当市の柴山町の丘陵部では、トマトなどの野菜を中心としたビニールハウスでの促成栽培が盛んにおこなわれています。柴山のトマトは、大きく、味が濃く、品質がよいことで知られています。

54 無人駅となった大聖寺駅は、令和 4 年 6 月、新たなにぎわいの場 大聖寺（ ）として、コワーキングスペースの新設や大阪で有名なパン店の出店等で生まれ変わった。

- ① ターミナルシティ    ② ゲートウェイ    ③ スマートウェイ    ④ ワークスペース

正答率 34.2%

明治 30 年（1897）年開業の大聖寺駅は利用者の減少などで、令和 3 年 10 月から無人化となりました。これにともない加賀市は大聖寺地区のシンボルである駅をにぎわい拠点として再生するため、JR 西日本から駅舎を取得し、総工費約 1 億 7 千万円で待合室などを改装し、「大聖寺ゲートウェイ」として整備しました。

55 令和 5 年秋公開予定の映画「LADY KAGA」<sup>レディカガ</sup>は、加賀温泉郷の若女将<sup>わかおかみ</sup>たちがタップダンスを通じて、温泉地を盛り上げていくストーリーで、主演女優は（ ）である。

- ① 小芝風花<sup>こしばふうか</sup>    ② 浜辺美波<sup>はまべみなみ</sup>    ③ 有村架純<sup>ありむらかすみ</sup>    ④ 清原果耶<sup>きよはらかや</sup>

正答率 42.3%

令和 5 年（2023）秋公開予定の加賀温泉を舞台にした映画「レディカガ」は、コロナ禍で苦境に置かれている温泉街を盛り上げるため、若女将たちがタップダンスショーで奮闘する姿を描いた映画です。女優の小芝風花が主演し、加賀温泉郷の老舗旅館のおかみ修行に励む一人娘を演じます。

専門テーマ「錦城山」

56 錦城山の標高は約（ ）メートルである。

- ① 65 ② 85 ③ 97 ④ 102

正答率 43.0%

大聖寺町のシンボルとなっている錦城山は標高が約 65 メートルとかなり低い山ですが、越前との国境に近く、中世よりこの地を治めた歴代武将がここに城を築きました。麓から頂上の本丸跡までは 20 分程度で到着しますが、頂上からは大聖寺の町並みが展望できます。

57 錦城山の麓で穴を掘って、贋金をつくった事件を「パトロン事件」と呼ばれているが、そのパトロンとは（ ）のことである。

- ① 支援者 ② 藩札 ③ 弾薬 ④ 二歩金

正答率 57.0%

明治元年（1868）2 月、大聖寺藩は官軍 からパトロン（弾薬）と 雷管（発火具）20 万発の調達を命じられた際、その資金不足を補うために、御城山（錦城山）下の洞穴で二歩金を偽造しました。この貨幣偽造事件をパトロン事件といいます。パトロンとはウクライナ語で弾薬を意味しています。

58 大聖寺城の名が登場する最も古い時代の書物は（ ）である。

- ① 太平記 ② 源平盛衰記 ③ 今昔物語 ④ 平家物語

正答率 81.9%

大聖寺城がはじめて文献に登場するのは南北朝時代の『太平記』が初見です。この太平記は、後醍醐天皇の即位から鎌倉幕府の滅亡、南北朝時代から室町時代までの歴史について書かれた軍記物語で、この書には、建武 2 年（1335）北条氏の残党・名越時兼が越中・能登・加賀の兵を率いて京へ上ろうとしたところ、土豪の狩野一門が「大聖寺ノ城」に拠って迎え撃ったと記されています。

59 錦城山という名前と呼ばれるようになったのは、明治以降のことであるが、それ以前は、（ ）と呼ばれていた。

- ① 古城山 ② 鹿山 ③ 蛇山 ④ 後ろ山

正答率 67.1%

中世より歴代武将が大聖寺城を築いたこの山を、「錦城山」と呼ぶようになったのは幕末から明治以降のこととされています。それまでは、「古城山」もしくは「お城山」と呼ばれていました。江戸時代より、お城の別名として「金城」や「錦城」の名をつけることがあり、錦城山は、こうした例にならない山の名前としてつけられたものと思われます。

60 錦城山北西側は、数百羽の（ ）が集まるコロニー（集団繁殖地）として知られている。

- ① カラス ② サギ ③ ムクドリ ④ ハト

正答率 40.3%

錦城山の北西斜面はサギ山といわれるほどサギのコロニーとなっています。3 月初旬に東南アジアから飛来し 7 月下旬に帰っていくサギですが、春から夏にかけて繁殖期を迎え集団繁殖します。こうした時期は鳴き声による騒音被害や糞などによる臭いによる生活被害をもたらす場合があります、生態系の保護と公害の 2 つにどのように対処すべきか、全国的な問題となっています。